

第9章

決算整理

～学習内容～

- ・ 決算
- ・ 売上原価の算定
- ・ 貸倒引当金
- ・ 消耗品
- ・ 繰延べ・見越し

決算は大忙し！



第9章 決算整理

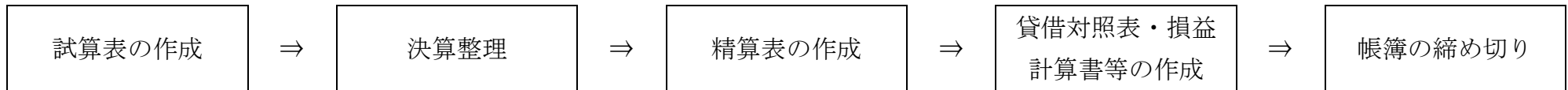
第1節 決算

1. 決算とは

決算とは、期末（決算日）に一会計期間の財政状態と経営成績を明らかにするため、貸借対照表や損益計算書を作成する一連の手続きをいいます。

2. 決算の流れ

決算の流れを簡単にまとめると以下ようになります。



- | | |
|------------|------------|
| ①売上原価の算定 | ⑥費用と収益の繰延べ |
| ②貸倒引当金の設定 | ⑦費用と収益の見越し |
| ③固定資産の減価償却 | ⑧現金過不足の処理 |
| ④有価証券の評価替え | ⑨引出金の処理 |
| ⑤消耗品の処理 | |



③・④・⑧・⑨については、第7章・第6章・第2章・第8章で説明したよね。

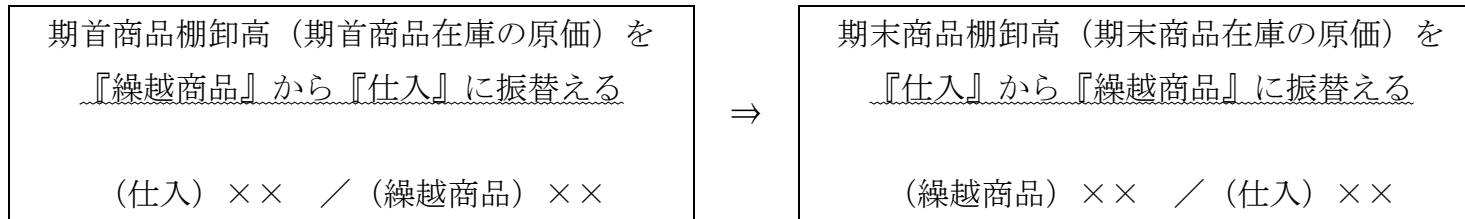
第2節 売上原価の算定

1. 売上原価とは

売上原価とは、当期売上げた商品を仕入れるためにかかった費用のことをいいます。

商品売買の章で説明しましたが、3級では商品売買取引を三分法という方法で処理します。三分法とは商品売買取引を『仕入』（費用）、『売上』（収益）、『繰越商品』（資産）という3つの勘定を用いて処理する方法です。この方法によれば、商品を仕入れた場合には『仕入』（費用）勘定で処理するため、決算整理前の『仕入』勘定は当期の仕入金額を示すことになります。当期仕入れた商品をすべて販売した場合（なお、期首商品在庫は存在しないと仮定）、この仕入金額がそのまま当期の売上原価となりますが、期末に商品在庫が存在する場合などには両者が異なることになるため、決算整理を行うことによって『仕入』勘定を売上原価に修正する必要があります。

売上原価を算定する流れ（仕訳）は以下のようになります。



【例9-1】

決算において商品に関する決算整理手続きを行う。なお、期首商品棚卸高は400円、当期の仕入高は1,000円、期末商品棚卸高は500円であり、売上原価は仕入勘定で算定する。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-----|------|-----|
| 仕 入 | 400 | 繰越商品 | 400 |
| 繰越商品 | 500 | 仕 入 | 500 |

解説

①決算整理前の繰越商品勘定と仕入勘定の各残高は以下の通りです。

| 繰越商品 | | 仕 入 | |
|------|--|--------|--|
| 期首商品 | | 当期仕入 | |
| 400円 | | 1,000円 | |

②まず、期首商品棚卸高（期首商品在庫の原価）を『繰越商品』から『仕入』に振替えます。

| 繰越商品 | | 仕 入 | |
|------|------|--------|--|
| 期首商品 | 期首商品 | 当期仕入 | |
| 400円 | 400円 | 1,000円 | |
| | | 期首商品 | |
| | | 400円 | |

③次に、期末商品棚卸高（期末商品在庫の原価）を『仕入』から『繰越商品』に振替えます。

| 繰越商品 | | 仕 入 | |
|------|--------------|--------|--------------|
| 期首商品 | 期首商品 | 当期仕入 | 期末商品 |
| 400円 | 400円 | 1,000円 | 500円 |
| 期末商品 | } 500円(繰越商品) | 期首商品 | } 900円(売上原価) |
| 500円 | | 400円 | |

2. 売上原価勘定を用いる方法

前述したように、通常、売上原価の算定は『仕入』勘定を用いて行いますが、『売上原価』勘定を用いる場合もあります。

【例9-2】

決算において商品に関する決算整理手続きを行う。なお、期首商品棚卸高は400円、当期の仕入高は1,000円、期末商品棚卸高は500円であり、売上原価は『売上原価』勘定で算定する。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-------|------|-------|
| 売上原価 | 400 | 繰越商品 | 400 |
| 売上原価 | 1,000 | 仕入 | 1,000 |
| 繰越商品 | 500 | 売上原価 | 500 |

解説

①決算整理前の繰越商品勘定と仕入勘定の各残高は以下の通りです。

| 繰越商品 | | 仕 入 | |
|-------|--|---------|--|
| 期首商品 | | 当期仕入 | |
| 400 円 | | 1,000 円 | |

②まず、期首商品棚卸高（期首商品在庫の原価）と当期の仕入高を『繰越商品』・『仕入』から『売上原価』に振替えます。

| 繰越商品 | | 仕 入 | | 売上原価 | |
|-------|-------|---------|---------|---------|--|
| 期首商品 | 期首商品 | 当期仕入 | 当期仕入 | 期首商品 | |
| 400 円 | 400 円 | 1,000 円 | 1,000 円 | 400 円 | |
| | | | | 当期仕入 | |
| | | | | 1,000 円 | |

③次に、期末商品棚卸高（期末商品在庫の原価）を『売上原価』から『繰越商品』に振替えます。

| 繰越商品 | | 仕 入 | | 売上原価 | |
|-------|----------------|---------|---------|---------|----------------|
| 期首商品 | 期首商品 | 当期仕入 | 当期仕入 | 期首商品 | 期末商品 |
| 400 円 | 400 円 | 1,000 円 | 1,000 円 | 400 円 | 500 円 |
| 期末商品 | } 500 円 (繰越商品) | | | 当期仕入 | } 900 円 (売上原価) |
| 500 円 | | | | 1,000 円 | |

第3節 貸倒引当金

1. 貸倒引当金の設定

得意先に対する売掛金等の債権は将来現金を受取ることができる権利を意味しますが、得意先の倒産等により実際には回収できないことがあります。この回収できなくなることを「貸倒れ」といい、決算では、時期以降の貸倒れに備える処理を行います。

具体的には、期末の売掛金や受取手形等の債権に対する将来の貸倒見積額を計算し、これを『貸倒引当金繰入』（費用）として処理するとともに『貸倒引当金』を計上します。

【例9-3】

決算において、売上債権の期末残高 20,000 円に対して、2%の貸倒引当金を設定した。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|---------|-----|-------|-----|
| 貸倒引当金繰入 | 400 | 貸倒引当金 | 400 |

なお、決算において前期に設定した貸倒引当金の残高がある場合には、当期設定すべき金額との差額を繰り入れる処理を行います（差額補充法）。

【例9-4】

決算において、売上債権の期末残高 20,000 円に対して、2%の貸倒引当金を設定した。なお、貸倒引当金の残高は 100 円である。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|---------|-----|-------|-----|
| 貸倒引当金繰入 | 300 | 貸倒引当金 | 300 |

2. 貸倒れの処理

(1) 貸倒引当金設定後の貸倒れ

債権に対して貸倒引当金を設定した後（次期以降）において、実際に貸倒れが生じた場合には、貸倒れた債権（売掛金等）を減少させるとともに、設定した貸倒引当金を取り崩します。そして、実際の貸倒額が見積りより大きい場合、つまり貸倒引当金の額を超える貸倒れが生じた場合には、当該超過額を『貸倒損失』（費用）として処理します。

【例9-5】

得意先が倒産し売掛金 500 円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は 300 円である。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|-------|-----|------|-----|
| 貸倒引当金 | 300 | 売掛金 | 500 |
| 貸倒損失 | 200 | - | - |

(2) 貸倒引当金設定前の貸倒れ

前述したように、貸倒引当金を設定した後に貸倒れが生じた場合には、貸倒引当金を取り崩す処理を行います。しかし、当期発生した売掛金等が貸倒れた場合のように、貸倒引当金を設定する前に貸倒れが生じた場合には、貸倒れた全額を『貸倒損失』（費用）として処理します。

【例9-6】

得意先が倒産し、当期発生した売掛金 500 円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は 300 円である。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-----|------|-----|
| 貸倒損失 | 500 | 売掛金 | 500 |

解説

当期に発生した売掛金（貸倒引当金を設定していない売掛金）が貸倒れたため、貸倒れた全額を『貸倒損失』（費用）として処理します。

第4節 消耗品

1. 消耗品購入時

消耗品とは、ボールペンやコピー用紙など、低額で短期的に消費されるものをいいます。

消耗品の処理には購入時に、①『**消耗品費**』（費用）として処理する方法と、②『**消耗品**』（資産）として処理する方法があります。

【例9-7】

ボールペン 500 円を現金で購入した。

| ①『消耗品費』（費用）とする方法 | | | | ②『消耗品』（資産）とする方法 | | | |
|------------------|-----|------|-----|-----------------|-----|------|-----|
| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
| 消耗品費 | 500 | 現金 | 500 | 消耗品 | 500 | 現金 | 500 |

2. 決算時

消耗品の処理として、①『消耗品費』（費用）として処理する方法を採用している場合には、期末に残っている未使用分を『消耗品費』（費用）から『消耗品』（資産）に振り替えます。これに対して、②『消耗品』（資産）として処理する方法を採用している場合には、当期使用した分を『消耗品』（資産）から『消耗品費』（費用）に振り替えます。

【例9-8】

決算において、消耗品 100 円が未使用であることがわかった。なお、当期の消耗品購入額は 500 円であり、期首に消耗品の在庫はなかった。

| ①『消耗品費』（費用）とする方法 | | | | ②『消耗品』（資産）とする方法 | | | |
|------------------|-----|------|-----|-----------------|-----|------|-----|
| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
| 消耗品 | 100 | 消耗品費 | 100 | 消耗品費 | 400 | 消耗品 | 400 |

解説

①『消耗品費』(費用) とする方法

■決算整理前の各勘定残高

| 消耗品費 | | 消耗品 | |
|-------|--|-----|--|
| 当期購入 | | | |
| 500 円 | | | |



■未使用分の振り替え

| 消耗品費 | | 消耗品 | |
|-------|-------|-------|--|
| 当期購入 | 消耗品 | 消耗品費 | |
| 500 円 | 100 円 | 100 円 | |

②『消耗品』(資産) とする方法

■決算整理前の各勘定残高

| 消耗品費 | | 消耗品 | |
|------|--|-------|--|
| | | 当期購入 | |
| | | 500 円 | |



■当期使用分の振り替え

| 消耗品費 | | 消耗品 | |
|-------|--|-------|-------|
| 消耗品 | | 当期購入 | 消耗品費 |
| 400 円 | | 500 円 | 400 円 |

決算整理後の『消耗品費』勘定は 400 円 (借方)、『消耗品』勘定は 100 円 (借方) となり、①・②いずれの方法によっても残高は同じになります。

第5節 費用・収益の繰延べ・見越し

1. 繰延べ・見越しとは

家賃、保険料、利息などは支出または収入に基づいて当期の費用または収益が計上されているため、期末の各勘定残高が必ずしも当期に属する金額となっているとは言えません。そこで決算において、費用・収益の繰延べ^{※1}・見越し^{※2}の処理を行うことによって、各勘定残高を正しく修正する必要があります。

※1：繰延べとは、当期の支出・収入に基づいた費用・収益勘定から、次期以降にかかる分を差し引くとともに、資産または負債として繰り越すことをいいます。

※2：見越しとは、当期においてまだ支出・収入がないため、費用・収益勘定に含まれていない項目で、次期以降に生じる支出・収入から当期に属する金額を費用・収益として計上するとともに、負債または資産として繰り越すことをいいます。

2. 費用の繰延べ

費用を繰延計上する際には、費用を減額するとともに、『前払費用』^{※3}（資産）を計上します。

※3：前払費用は、『前払保険料』や『前払家賃』など具体的な勘定名を使用することもあります。

【例9-9】

決算（3月31日）において、保険料の繰延べ処理を行った。なお、保険料は8月1日に1,200円（1年分）を支払っている。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|-------|-----|------|-----|
| 前払保険料 | 400 | 保険料 | 400 |

解説

| | | |
|--------------------|------------|------|
| 8/1 | 3/31 | 7/31 |
| 保険料 1,200円（1年分）の支払 | 決算日 | |
| 1,200円（1年分）前払い | | |
| 800円（8ヶ月分） | 400円（4ヶ月分） | |



保険料（費用）が400円（4ヶ月分）
過大に計上されているから繰延べなきゃ。

3. 収益の繰延べ

収益を繰延計上する際には、収益を減額するとともに、『前受収益』^{※4}（負債）を計上します。

※4：前受収益は、『前受家賃』や『前受利息』など具体的な勘定名を使用することもあります。

【例9-10】

決算（3月31日）において、家賃の前受分の繰延べ処理を行った。なお、家賃は12月1日に600円（6ヶ月分）を受取っている。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-----|------|-----|
| 受取家賃 | 200 | 前受家賃 | 200 |

解説

| 12/1 | 3/31 | 5/31 |
|----------------|------|------------|
| 家賃600円（半年分）の受取 | 決算日 | |
| 600円（6ヶ月分）前受け | | |
| 400円（4ヶ月分） | | 200円（2ヶ月分） |



受取家賃（収益）が200円（2ヶ月分）
過大に計上されているから繰延べなきゃ。

4. 費用の見越し

費用を見越計上する際には、費用を計上するとともに、『未払費用』^{※5}（負債）を計上します。

※5：未払費用は、『未払保険料』や『未払家賃』など具体的な勘定名を使用することもあります。

【例9-11】

決算（3月31日）において、支払家賃の見越計上を行った。なお、家賃は5月31日に600円（過去4ヶ月分）を支払う予定である。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-----|------|-----|
| 支払家賃 | 300 | 未払家賃 | 300 |

解説

| | | |
|---------------|------------|-------------------|
| 2/1 | 3/31 | 5/31 |
| | 決算日 | 家賃600円（過去4ヶ月分）の支払 |
| 600円（4ヶ月分）未払い | | |
| 300円（2ヶ月分） | 300円（2ヶ月分） | |



支払家賃（費用）が300円（2ヶ月分）未計上になっているから見越計上するよ。

5. 収益の見越し

収益を見越計上する際には、収益を計上するとともに、『未収収益』^{※6}（資産）を計上します。

※6：未収収益は、『未収家賃』や『未収利息』など具体的な勘定名を使用することもあります。

【例9-12】

決算（3月31日）において、受取利息の見越計上を行った。なお、利息は9月30日に1,000円（過去1年分）を受取る予定である。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-----|------|-----|
| 未収利息 | 500 | 受取利息 | 500 |

解説

| | | |
|---------------|------------|--------------------|
| 10/1 | 3/31 | 9/30 |
| | 決算日 | 利息1,000円（過去1年分）の受取 |
| 1,000円（1年分）未収 | | |
| 500円（6ヶ月分） | 500円（6ヶ月分） | |



受取利息（収益）が500円（6ヶ月分）
未計上になっているから見越計上するよ。

6. 繰延べ・見越し後の処理

繰延べ・見越しの処理を行った場合、翌期首に再振替仕訳を行います。

なお、再振替仕訳とは、繰延べ・見越し時に行った仕訳の逆仕訳を行うことをいいます。

【例9-13】

【例9-12】を前提とし、翌期首（4/1）に再振替仕訳を行った。

| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
|------|-----|------|-----|
| 受取利息 | 500 | 未収利息 | 500 |